

研究所彙報

一 二〇一七年度研究所・所員リスト

- 教授 市野澤 潤平 (文化人類学)
- 教授 今林 直樹 (社会学・政治学)
- 教授 菊池 勇夫 (日本近世史)
- 准教授 木村 春美 (第二言語習得・英語教育)
- 教授 九里 順子 (日本近代文学)
- 准教授 栗原 健 (宗教学・近世ドイツ史)
- 准教授 間瀬 幸江 (フランス文学・演劇)
- 教授 松浦 光和 (心理学)
- 教授 宮原 育子 (地理学・地域資源論・観光まちづくり)
- 教授 森 雅彦 (西洋美術史)
- 教授 J. F. モリス (日本文化論)
- 教授 新免 貢 (宗教学)
- 准教授 杉井 信 (社会人類学)

- 教授 田中一裕 (生態学)
- 教授 天童睦子 (女性学)
- 教授 土屋純 (地理学)
- 教授 豊澤弘伸 (国語教育)
- 教授 八木祐子 (文化人類学)
- 教授 吉村典子 (西洋建築デザイン史)
- 客員 阿部隆 (宮城学院女子大学名誉教授・人文地理学)
- 客員 井上研一郎 (宮城学院女子大学名誉教授・近世美術史)
- 客員 岩川亮 (元宮城学院女子大学准教授・フランス語学・文学)
- 客員 遠藤みどり (日本学術振興会特別研究員・日本古代史)
- 客員 犬飼公之 (宮城学院女子大学名誉教授・古代文学)
- 客員 大石泰夫 (盛岡大学教授・日本古代文学)
- 客員 大迫章史 (仙台白百合女子大学准教授・近代日本高等教育史・近代日本教育制度史・教育行政学)
- 客員 木曾恵子 (東北学院大学および宮城学院女子大学非常勤講師・文化人類学・タイ地域研究・ジエングダー研究)
- 客員 後藤純子 (元大阪市立大学文学部助教授・インド学・宗教学)

客員 後藤 久太郎（宮城学院女子大学名誉教授・建築史）
客員 富永 智津子（元宮城学院女子大学教授・東アフリカ・インド洋地域近現代史）
客員 豊山 亜希（近畿大学国際学部講師・南アジア美術史）
客員 早坂 優子（多賀城市教育委員会事務局文化財課調査普及係・民俗学）
客員 丸山 仁（宮城学院中学校・高等学校教諭・日本中世史）

二 共同研究について

本年度の共同研究のテーマは次の通りである。

「南島における民族と宗教」

「多民族社会における宗教と文化」

「キリスト教文化の受容と変容」

共同研究の成果として、次の冊子が刊行された。

『沖縄研究ノート』27

『多民族社会における宗教と文化』No.21

三 二〇一七年度研究所活動報告

公開シンポジウム

二〇一七年二月九日(土) 午後二時四〇分より午後四時一〇分(〓本学礼拝堂)

「人間の復興と女性のエンパワーメントⅡ―女性と移動を中心に―」

報告1 「東日本大震災にみる移住女性たちのレジリエンス」

大村 昌 枝(公益財団法人宮城県国際化協会MIA スーパーバイザー)

報告2 「東日本大震災における広域避難と女性」

浅野 富美 枝(元本学教授/ NPO法人イコロールネット仙台 理事)

コメンテーター 大野 順子(摂南大学特任准教授)

協力 本学特別共同研究「越境の文化的創造力」プロジェクト

公開研究会

二〇一七年六月九日(金) 午後二時一五分より午後二時一五分(〓本学人文館五階A五四九大会議室)

「固有法と近代法―アメリカ在住モン族の『誘拐婚』から考える『伝統』のあり方―」

講師 吉井 千周(国立都城工業高等専門学校准教授)

二〇一七年七月四日(火) 午後二時一五分より午後二時一五分(〓本学人文館五階A五四九大会議室)

「近世民衆史の可能性―みつ女「他領奉公」―一件の背景を読む―」

講師 菊池 勇夫(本学教授)

二〇一七年七月二九日(土) 午後一時より午後三時(〓本学人文館五階A五四九大会議室)

「ミッション系女子教育の歴史と展望」

報告1「キリスト教主義女子教育の近代―宮城女学校を事例に―」

講師 大迫章史（仙台白百合女子大学准教授）

報告2「未来を切り開く『知恵子』たち―キリスト教教育を問い直す―」

講師 新免 貢（本学教授）

二〇一八年二月二日（水）午後二時より午後四時（≪本学講義館三階C三〇一教室≫）

「明治維新一五〇年か、戊辰戦争一五〇年か―東北の視座から―」

講師 菊池 勇夫（本学教授）

〈共同研究「多民族社会における宗教と文化」主催〉

公開研究会

二〇一七年一〇月二七日（金）午後四時二〇分より午後六時二〇分（本学講義館五階C五〇三教室）

「フィリピンにルーツを持つ子どもたちの困難―日本の学校で学ぶ子どもたちに焦点を当てて―」

報告者 矢元 貴美（本学および大阪大学非常勤講師）

二〇一八年一月二六日（金）午後二時より午後四時三〇分（≪本学人文館五階A五四九大会議室≫）

「被災と死をめぐる人類学的考察」

3. 11を『学ぶ』とは―福島県内の短期大学におけるPBLの事例から―

報告者 田中大介（東京大学学術研究員）

「津波の後で、〃終わり〃の手元で―津波被災地の老人たちとともに考える―」

報告者 木村 周平 (筑波大学助教)

コメンテーター 猪瀬 浩平 (明治学院大学准教授)

コメンテーター 高野 さやか (中央大学准教授)

コメンテーター 市野 澤潤平 (本学教授)

二〇一八年一月三〇日(火) 午後四時二〇分より午後五時五〇分 (≪本学講義館四階C四〇九教室≫)

「タイにおける観光ダイビング産業の展開」

報告者 小河 久志 (常葉大学准教授)

報告者 市野 澤潤平 (本学教授)

公開ワークショップ

二〇一七年二月一六日(土) 午後三時より午後四時三〇分 (≪本学講義館三階C三〇一教室≫)

「学生の主体性と協同性をひきたす授業デザイン」

報告者 今中 舞衣子 (大阪産業大学国際学部准教授)

共催 本学FD推進委員会

四 所員消息 (二〇一七年四月—二〇一八年三月)

市野澤 潤平 教授

その他「不確実性をめぐる議論の拡がり (共同研究：確率的事象と不確実性の人類学)」『民博通信』第一五九

号、二〇一七年二月)

学会報告「観光業における「個人的安全保障化」の進展…ブーケット在住日本人ダイビング・ガイドの職業生活におけるリスクとセキュリティ」観光学術学会第六回研究大会・神戸山手大学(二〇一七年七月一日)

研究会報告「観光ダイビングにおける身体感覚とテクノロジー」国立民族学博物館共同研究「テクノロジー利用を伴う身体技法に関する学際的研究」(二〇一七年二月一九日)

今 林 直 樹 教授

書評

『沖繩、時代を生きた学究 伝 東江平之』(辻本昌弘、沖繩タイムス社、二〇一七年)

菊 池 勇 夫 教授

著書『探究の人 菅江真澄』無明舎出版、二〇一七年四月

論文「「春木」伐り出しと川流し―八戸藩島守村を事例に―」『環境動態を視点とした地域社会と集落形成に関する総合的研究』東北芸術工科大学東北文化研究センター、二〇一七年三月

論文「場所経営における煙草の機能―ヨイチ場所を例に―」『アイヌ交易品としての煙草とその値段』、百瀬響編『北海道・東北を中心とする北方交易圏の理論的枠組みのための総合的研究』研究成果報告書』北海道教育大学札幌校、二〇一七年三月

論文「西磐井小猪岡の天保飢饉と集落危機―近世本寺の集落史研究の参照事例として―」『骨寺村荘園遺跡村落調査研究報告書』一関市博物館、二〇一七年三月

論文「徵発と兵火のなかの北東北の民―秋田藩と盛岡藩の戦争にみる―」『戊辰戦争』下、吉川弘文館、二〇一八年三月

論文「凶年・飢饉の記録が伝えるもの―近世人の「用心」―」『栃木県立文書館紀要』二二号、栃木県立文書館、二〇一八年三月

論文「藩政下の山谷本寺における馬について―有馬・買い渡し・父馬―」『平成二九年度骨寺村荘園遺跡村落調査研究報告書』一関市博物館、二〇一八年三月

論文「北東北の人口史料にみる天明・天保の飢饉」『研究紀要』五一号、宮城学院女子大学附属キリスト教文化研究所、二〇一八年三月

批評「近世史部会大会報告批判」歴史学研究九六五号、二一〇一七年一二月

講義「山谷本寺における馬の所持・売買などについて―佐藤（達）家文書・文久元年（一八六一）年の馬関係史料から―」主催一関市博物館（骨寺村一〇〇〇年の歴史を語る）、会場一関文化センター中ホール、二〇一七年三月一八日

報告「飢饉のダメージ、飢饉から立ち直る―江戸期北東北の人口史料を読む―」日本人口学会、会場東北大学青葉山北キャンパス理学研究科合同C棟、二〇一七年六月一〇日

報告「近世民衆史の可能性―みつ女「他領奉公」一件の背景を読む―」主催宮城学院女子大学附属キリスト教文化研究所、会場宮城学院女子大学人文館、二〇一七年七月四日

講演「仙台藩北部の田村麻呂伝説―地誌と語り物にみる―」登米市歴史博物館、二〇一七年七月一六日

講義「食に飢えるということ―江戸時代の飢饉記録から―」主催鶴岡市・鶴岡致道大学、会場東北公益文化大学
大学院ホール、二〇一七年七月二一日

講義「人別帳を読む―鉄砲と類族など―」講座「骨寺大学」、一関市博物館、二〇一七年八月二七日

講義「安藤昌益と寺島良安―「蝦夷」観の比較―」主催安藤昌益と千住宿の関係を調べる会、会場東京芸術セン
ター、二〇一七年一〇月二〇日

講義「歌を詠む女、働き稼ぐ女―菅江真澄の日記を中心に―」みやぎ県民大学「大学開放講座」、会場宮城学院
女子大学、二〇一七年一〇月二八日

講義「『三国通覧図説』にみる琉球認識」宮城学院女子大学生涯学習講座、二〇一七年十一月一六日
報告「民衆的生活世界へ―働く女たちを例に―」東京学芸大学フォーラム、没一九〇年記念「菅江真澄の見た日
本」会場東京学芸大学、二〇一七年三月三日

木村 春美 准教授

論文 “Foreign language listening anxiety: A self-presentational,” (*International Journal of Listening*, 31:3,
142-162, 2017)

論文 “Back-to-the-future essays aid study abroad gains,” (*JALT 2016 Conference Proceedings*, 172-178, 2017)

論文 “Back-to-the-future essays come alive,” (*Proceedings of JALT PanSIG Conference 2016*, 151-156, 2017)

論文 “How to improve vocabulary learning in a language classroom: Collection of action research studies 2017,”

(*Bulletin of Miyagi Gakuin Women's University*, 125, 73-98, 2017)

- 書評 “Positive psychology in SLA,” *JALT Journal*, 39:2, 209-212, 2017)
- 学会発表 “Self-transcription combats accuracy/fluency tradeoff,” JALT Pan SIG Conference 2017, Akita International University (Akita) (二〇一七年五月二〇日)
- 学会発表 “Post-study abroad projects made easy,” JALT International Conference 2017, International Congress Center (Tsukuba) (二〇一七年十一月二〇日)
- 学会発表 “L2 classroom incivility coping depends on emotional and social intelligences,” Language Education across Borders, University of Graz (Austria) (二〇一七年十二月八日)
- 九里 順子 教授
- 論文「木下夕爾、『生れた家』の〈現実〉」(『日本文学ノート』五二号 二〇一七年七月)
- 書評「春田千歳句集『蟬氷』」(『鬘』六三号 二〇一七年五月)
- 書評「『鬘 TATEGAMI』六四号評」(『鬘』六五号 二〇一七年十一月)
- 文学展示会評「医と文学く杉田玄白からかさとし、山崎光夫までく、福井県ふるさと文学館」(『鬘』六五号 二〇一七年十一月)
- 書評「日原傳句集『燕京』」(『鬘』六六号 二〇一八年二月)
- 俳句「緑のハイソリヒ」(『鬘』六四号 二〇一七年八月)
- 俳句「星影さやかに」(『鬘』六五号 二〇一七年十一月)
- 俳句「十月の台風」(『鬘』六六号 二〇一八年二月)

- 随筆「おすもうさんの鈴」〔『鬣』六三号 二〇一七年五月〕
- 随筆「暮らす人の本質性」〔『鬣』六三号 二〇一七年五月〕
- 随筆「岩を毀つ」〔『鬣』六四号 二〇一七年八月〕
- 随筆「地球の肉体」〔『鬣』六五号 二〇一七年十一月〕
- 随筆「唐獅子牡丹」〔『鬣』六六号 二〇一八年二月〕
- 随筆「ビートでこんにゃく」〔『鬣』六六号 二〇一八年二月〕
- 評論「孤独に根を下ろすために」〔『鬣』六六号 二〇一八年二月〕
- 栗原 健 准教授
- 書評 Time Luk Meganck, Pieter Bruegel the Elder, *Fall of the Rebel Angels: Art, Knowledge and Politics on the Eve of the Dutch Revolt. Sixteenth Century Journal* Vol. 48, No. 3 (Fall 2017), pp. 853-854.
- 書評 The Grey Friars Research Team with Maev Kennedy and Lin Foxhall, *The Bones of A King: Richard III Rediscovered*. 〔『西洋中世研究』第九号、二〇一七年二月三十一日、一八四—一八五頁〕
- 間瀬 幸江 准教授
- 論文「「聞き続ける」という挑戦—映画『ハッピーアワー』の制作過程に関する一考察」〔宮城学院女子大学研究論文集』一二四号 二〇一七年六月〕
- 論文「学校をまわりの場に—宮城学院クリスマスマーケット企画運営—」〔関西フランス語教育研究会『Rencontres』三十一号 二〇一七年〕

エッセイ「喪の時代・喧騒の時代―激動の両大戦間期と劇作家ジロドゥ」(新国立劇場中劇場上演『トロイ戦争は起こらない』上演パンフレット 二〇一七年一〇月)

翻訳「ジョルジュ・バニユ『私たちの舞台「桜の園」観劇ノート』抄訳(シアターコクーン・オンレパトリー 二〇一七『二四番地の桜の園』二〇一七年一月)

学会報告「『トロイ戦争は起こらない』を解きほぐす―《重ね書き》から上演まで―」(日本比較文学会東北支部 第一六回比較文学研究会二〇一七年七月二二日)

レクチャー「演劇講座 ジャン・ジロドゥの世界」(新国立劇場マンスリー・プロジェクト一〇月 二〇一七年一〇月一五日)

講演会運営「公開ワークショップ 学生の主体性と協同性をひきだす授業デザイン 報告者 今中舞衣子氏」

(宮城学院女子大学附属キリスト教文化研究所 共同研究「多民族社会における宗教と文化」主催 宮城学院女子大学FD推進委員会共催 二〇一七年一二月一六日)

新免 貢 教授

論文

「愛敵論」(本学『キリスト教文化研究所研究年報五一号』二〇一八年三月一日、一―五二頁)

「未来を切り開くキリスト教教育論」『二〇一七年度全国大学チャブレン会報告書』(全国大学チャブレン会事務局発行、二〇一八年三月一日、一〇三―一一九頁)

編著『イスラムと日本を結ぶ平和の絆―二〇一七年度全国大学チャブレン会報告書』全国大学チャブレン会事

務局発行、二〇一八年三月一日、全一三六頁)

書評

「武藤慎一著『宗教を再考する―中東を要に、東西へ』(勁草書房、二〇一五年)―シリア宗教の地下水脈を縦横無尽に掘り起こした宗教論―」(京都ユダヤ思想学会編『京都ユダヤ思想』第八号、二〇一七年六月二十四日、一三九―一四一頁)

研究発表

本研究所周開研究会発表

「未来を切り開く「知恵」子たち―キリスト教教育を問い直す―」(二〇一七年七月二十九日、人文館A五九四)

第一回「聖書と性」学習会研究発表

「新しい出会いの物語―『ガラテヤの信徒への手紙』三章二八節を読む―」(二〇一七年五月三〇日、日本基督教団いずみ愛泉教会)

講座

関西神学塾／政治・宗教思想研究会(日本基督教団西宮公会教会資料室)

「原始キリスト教史における「規範化」をめぐる諸問題―福音書の複数性、二人のマリア、カリフ制など―」(二〇一七年四月二十四日)

「原始キリスト教史における「規範化」をめぐる諸問題―福音書の複数性、二人のマリア、カリフ制など

―(12)―(二〇一七年四月二五日)

「イエスのメシア称号をめぐって」(二〇一七年一月二四日)

「みんなの『ヨハネ黙示録』を読み直す試み」(二〇一八年二月二四日、二五日)

本学現代キリスト教講座

「新版『ルター訳聖書』―翻訳上の諸問題―」(二〇一七年一月三一日、キリスト教センター「ヴェリタス」)

みやぎ県民講座「イエスの母マリアとマグダラのマリア―原始キリスト教史の一断面(二〇一七年一二月

二日、本学講義館C二〇一号教室)

調査活動

日本におけるコプト教会の動向、及び、礼拝儀式に関する実地調査(二〇一七年六月二五日、聖マリア・聖マルコ日本コプト正教会、京都府木津川市)

コプトの信仰―神との関係、神の臨在の記憶―に関する調査(二〇一七年六月二八日、新橋愛宕山東急R E Iホテル会議室)

性的マイノリティの動向に関する調査(二〇一七年八月一九日、セクシュアリティ夜間学校、仙台市市民活動サポートセンター)

福島原発告訴団活動状況及び県外避難者現況に関する資料収集(二〇一七年二月一〇日、郡山ビッグアイ)

ユダヤ人の歴史と現在の動向に関する調査（二〇一七年二月一八日、ユダヤ系人権擁護団体サイモン・ウィーゼンタール・センター主催「民、聖書、その発祥の地―ユダヤ人と聖地の三五〇〇年にわたる繋がり」展〔山野ホール〕、及び、アメリカンセンターJAPAN）

仙台市立中学いじめ自死事件に関する動向調査（二〇一七年二月二七日、二〇一八年一月二〇日、二〇一八年二月一七日、仙台市役所）

田 中 一 裕 教授

論文「Day-to-day variations in the amplitude of the soil temperature cycle and impact on adult eclosion timing of the onion fly」(International Journal of Biometeorology, Springer, 2017)

論文「温度と湿度がキイロシヨウバエの羽化におよぼす影響―小学校理科教育での取り組みの可能性―」（菅屋大学論叢、二〇一七年七月一八日）

追悼文「正木進三先生を偲ぶ」（昆虫ニューシリーズ、日本昆虫学会、二〇一七年一〇月五日）

講演「プロフィールと人となり（経歴・研究業績の紹介）」（偲ぶ会：正木進三―優れた研究者、哲学者、よき教師そして開拓者）、東京農工大学小金井キャンパス（二〇一七年三月三〇日）

講演「家の周りを観察しよう」いきいき学園石巻校（宮城県社会福祉協議会）、東松島市コミュニティーセンター（二〇一七年二月一五日）

学会報告「キイロシヨウバエの羽化時計―前日の高温と低温の効果―」（日本応用動物昆虫学会、東京農工大 学小金井キャンパス（二〇一七年三月二八日））

学会報告「スケルトン温度周期下におけるタマネギバエの羽化リズム」日本昆虫学会東北支部会、岩松旅館（二〇一七年八月五日）

学会報告「タマネギバエは日暮れ時の温度較差をもとに羽化時刻を補正する」日本昆虫学会、愛媛大学城北キャンパス（二〇一七年九月四日）

学会報告「シバズズの雌雄モザイク個体について」日本昆虫学会、愛媛大学城北キャンパス（二〇一七年九月四日）

学会報告「キイロシヨウジウバエが羽化する時間帯を決定する温度要因―前日の最高温度の影響」日本時間生物学会、京都大学吉田キャンパス（二〇一七年一〇月二八日）

天童 睦 子 教授

著書『現代の家庭教育』（共著 田中理絵編）分担執筆第三章「育児観と子ども観の変容」第四章「親になる過程―親役割の取得」第六章「父親の育児参加」第十章「しつけの混乱―親の不安と戸惑い」（放送大学教育振興会、二〇一八年三月）

翻訳書『教育の危機―現代の教育問題をグローバルに問い直す』（監訳）（東洋館出版社、二〇一七年四月）
論文「教育社会学における言説研究の動向と課題―権力・統治・教育言説」（共著）『教育社会学研究』第一〇一集、一五三―一八三頁、日本教育社会学会、二〇一七年一月）

研究ノート「女性・子どもの文化論序説―ジェンダーと地域芸能の観点から」（松本晴子との共著）（キリスト教文化研究所『研究年報』第五一号、七一―九三頁、二〇一八年三月）

講演「男女の社会的差別を考えるシンポジウム」基調講演「女性と人権―生活の中から人権を考える」(女性と
防災・ネットワークおおさき主催) 大崎市民活動サポートセンター、二〇一七年六月一日

講演「ジェンダーについて」名取市教育委員会・生涯学習課・学習支援員研修 名取市体育館 二〇一七年七月
二七日

学会報告「開かれた住まい」言説と教育化・ジェンダー化される家族―育児言説の社会理論に依拠して」(共同・
ポスターセッション) 日本家族社会学会、京都大学、二〇一七年九月一日

講演「女性学で読み解く現代文化―メディア・音楽・女性表象」県民大学「女性たちよ!」第九シリーズ「女性
学再発見―女性の視点で読み解く歴史、芸術、文化」第一回、宮城学院女子大学、二〇一七年一〇月七日

研究報告「自著を語る『教育の危機―現代の教育問題をグローバルに問い直す』より「教育の危機―批判的研究
と実践の課題 (M. Apple)」日英教育研究会、早稲田大学国際会議場共同研究室、二〇一七年一二月一六日

吉村典子 教授

著書

吉村典子『ウィリアム・ド・モーガンとヴィクトリアン・アート』(淡交社、二〇一七年四月)

報告書

吉村典子「松島パークホテルの源流をめぐって ―イギリスのバタフライ住宅―」(近代仙台研究会、二〇
一八年二月)

学会口頭発表・招聘講演会

吉村典子「イギリスのデザイン・ムーヴメント——豊かな暮らしの系譜に学ぶ——」(Honcho Design Movement)連続講演会、仙台本町スクエア、二〇一七年九月)

吉村典子「ベイリー・スコットのバターフライ住宅」(近代仙台研究会、パールナレッジ仙台、二〇一七年一月)

吉村典子「ハマスミス・フラム・チェルシー——モリス、バーン||ジョーンズ、ド・モーガンの職任近接時代のものづくり——」(意匠学会デザイン史分科会、同志社女子大学、二〇一七年十二月)

吉村典子「ヴィクトリアニズムと絵画——『正統』を超えて——」(宮城学院女子大学特別共同研究「越境の文化的創造力」公開研究会、宮城学院女子大学、二〇一八年一月。公開シンポジウム、日立システムズホール仙台、二〇一八年二月)

調査

リチャード・ハミルトン展覧会図録調査(国立芸術図書館・ロンドン、二〇一七年九月)

リチャード・ハミルトン実作品調査(国立現代美術館・ソウル、二〇一七年十二月)